

はじまり！
はじまり～！

春はスタートの季節！各学科長の先生方におススメの本を紹介していただきました。

新たな出会いが図書館にはきっとあるはず！

食物栄養学科

学科長

次田 一代 先生



『グランドファーザーの生き方』

トム・ブラウン・
ジュニア著
ヒカルランド

グランドファーザーとは、アメリカ先住民の長老の中でも特に優れた賢者に贈られる称号で、「偉大なる祖父」を意味します。本書は、アパッチ族の古老ストーキング・ウルフの生き方を描いた物語です。彼は大自然の中で生き、自然の掟に従うことの大切さを教えてくれます。人間が本来持つ力や可能性に気づかされる一冊です。

子ども学科第Ⅰ部

学科長

松下 由美子先生



『えほんのせかい こどものせかい』

松岡 享子 著
文藝春秋

“子どもを本の世界に招き入れるために”大切なことをたくさん教えてくれる本です。私がこの本に出会ったのは、保育を学んでいた学生の頃でした。実際に読み聞かせをすると、絵本を開いて文字を読む自分と、熱心に絵を見ながらお話を聞く子どもとの間に、ほんわかとした心地よい時間が流れていました。絵本のリストもあるので、幼いころお気に入りだった懐かしい絵本や、これから読んでみたい絵本にもきっと出会えることでしょう。

子ども学科第Ⅲ部

学科長

辻 真樹 先生



『人生に必要な知恵はすべて 幼稚園の砂場で学んだ』

ロバート・フルガム 著
河出書房新社

本には「情報を得る」だけでなく、「心の状態を整える」役割もあるそうです。

皆さんは大学生という新しいステージに立ちましたが、卒業までの時間は知識や技術を詰め込むだけでなく、「どう生きるか」を考えるための土台を作る時期でもあります。

この本を初めて読んだのは大学生の頃で、本好きな知人にプレゼントされました。

その頃の思いと共に、皆さんが未来を思い描くきっかけになればと思い、この本をお勧めします。

経営情報・ デザイン学科

学科長

森藤 義雄 先生



『生きる言葉』

俵 万智 著
新潮社

俵万智さんは、『サラダ記念日：短歌：「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日』の著者であり歌人です。短歌（和歌）は、平安時代の『百人一首』が有名で、最近では短歌A I（万智さんA I）が下句の候補を自動生成してくれます。なお、平安時代の和歌は現代のSNSやメールのようなコミュニケーションツールでもあったようです。心の言語化のヒントになりますし、気分のアがる表現もあるのでお勧めします。



4月の新着図書や開館日、開館時間の変更等のお知らせは
図書館オリジナルwebをご覧ください！

附属図書館オリジナルWeb 香川短大HP→附属図書館→附属図書館オリジナルWeb

<http://lib.kjc.ac.jp/csp/carinhp/CARhpTOP.csp>

